

R3年度 大和こども園「こども園における自己評価」 大和こども園職員 56名評価

A : たいへんよい B : よい C : 一部検討を要する D : 改善を要する

項目	内 容	評価(%)				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
教育・保育理念	(1) 理念や基本方針が職員に周知されているか		○			・今年度は「やりたいことにチャレンジする子」という目指す子ども像をわかりやすく掲げ、理念等に基づいた教育保育を心がけた。子どもの「やってみたい」「やりたい」が実現できる環境の工夫に努めた。今後も継続して魅力ある遊び環境づくりを行っていきたい。
	(2) 理念や基本方針が利用者に周知されているか		○			
	(3) 理念や基本方針に基づいた教育保育が行われているか		○			
	(4) 一人一人の子どもの人権を尊重した教育保育について共通の理解を持っているか		○			
教育・保育の計画	(1) 社会状況の変化やこれまでの課題を踏まえて教育課程の見直しを行っているか		○			・日誌の形式変更から、日々の保育の振り返りが意図的に行えるようになった。毎週金曜日に、子どもの姿や遊びの場面から、子どもの育ちを職員間で共有し、次週の保育に繋げている。今後、振り返り（話し合い）の時間の確保が重要であり課題である。 ・全体の計画（教育課程、年間月間指導計画）が週の活動や日々の教育保育に十分活用されていない。次年度は、指導計画の見直しを行っていきたい。
	(2) 指導計画は今年度の3つの視点を踏まえ、その年齢に応じた体験が展開できるように配慮し作成されているか		○			
	(3) 保育実践を職員間で振り返り、月・週の目標、日々の保育のねらいを設定しているか		○			
子ども発達援助	(1) 子ども一人一人の健康状態や発育・発達の状態を把握し、職員間で共有しているか		○			・子どもの主体性、自主性を大切にする保育がどのような保育なのかを考え、迷い、ためらい、試行錯誤しながら「子ども主体」の保育を目指し、前へ進んでいくとしている。その中で、子どもの思いに寄り添いながら、「自分で決める」「遊びを選択する」経験が十分にできる時間の保障、子どもの興味、好奇心を揺さぶる環境づくりを常に意識するようになった。しかし環境構成に難しさを感じている職員もいる。また、子ども主体の保育を実現する上で欠かせないことは、職員間の「保育観の共有」であるともわかった。子どもを語る、保育を語る風土づくりに努めていきたい。 ・一人一人の発達の状況に応じた援助、声かけを心がけたが、子ども達に否定的な言葉が出てしまうこともあった。子どもが安心感をもって過ごせるよう共感的、応答的な接し方に努めたい。
	(2) 子どもが安心感をもって過ごせるよう共感的・応答的な接し方（言葉、態度）を行っているか		○			
	(3) 職員間で子ども理解に努め、一人一人に応じた働きかけや援助を行っているか		○			
	(4) 子どもの主体性を生かすよう物的・人的な環境構成の工夫を行っているか		○			
	(5) 子ども自らが判断できるような場面を意図的に持つことができたか		○			
	(6) 子どもと子ども、子どもと保育者が対話する場面を意図的に持つことができたか		○			
	(7) 保育者主導の保育にならないよう、必要最小限の支援・援助としたか		○			
	(8) 子どもを指導する場面では、感情的にならず、心を落ち着かせて行えたか		○			
	(9) 子どもの年齢に応じた発達の特徴を把握し、活動を開拓してきたか		○			
	(10) 子どもに相応しい食生活が展開されるように食事について見直し、食事を楽しむことができるよう工夫したか		○			
	(11) 支援を要する子どもに対して、個別の指導計画をもとに、見通しをもって支援・援助することができたか		○			
	(12) 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、教育保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮したか		○			

